



四日市看護医療大学

四日市看護医療大学同窓会報

Vol.5

平成29年10月20日 発行

四日市看護医療大学同窓会事務局

ごあいさつ

四日市看護医療大学同窓会 平成23年度卒業 寺尾 亮平

四日市看護医療大学同窓会の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、同窓会会報のご挨拶を担当させていただきます、2期生の寺尾です。

私は、本大学を卒業した後、3年間救急病棟で働いて参りました。ひと月に100人以上の救急患者を受け入れる病棟で心不全などの慢性疾患などにより再入院を繰り返す方や、自宅での療養が困難な方、入院による環境の変化でせん妄状態に陥る方など目にしてきました。そのような状況にある方々に対して看護師として、どのような支援ができるのか葛藤する日々を過ごしていました。そして、病院での看護活動の他に、地域での疾患の予防・健康増進や病気を抱える方々を地域で支える仕組みの充実が何より重要ではないのかと感じるようになりました。

そこで、本大学の先生方にも相談に乗っていただき大学院進学を決めました。大学院では、公衆衛生学・国際看護学・疫学・統計学など幅広く学び、健康について広く考えることができました。また、国内外の学会にも参加し、病院では医療従事者など限られた方々との交流でしたが、多職種との交流の機会を持つことができ多くの学びを得ることができました。

そして、昨年度大学院を卒業した後、本年度より本学の教員として再び戻ってくる運びとなりました。現在は、夏以降の基礎実習や成人看護学実習において在学生と共に学んでいます。学部時代にお世話になった先生方と仕事を共にすることに不思議な感覚を感じています。一方で、お世話になった先生方や職員の方々に見守られて教育者・研究者としての第一歩を母校で踏み出せることに幸せを感じております。

卒業生の皆様におかれましては、多方面でご活躍のことと思います。私自身は、教育者・研究者として歩み始めたばかりです。互いの経験や知識を同窓会を通して共有することは、個人の成長だけでなく、大学の成長・発展にも寄与するものと考えています。

最後になりますが、皆様方がより一層ご健勝にてご活躍されることを心からお祈り申し上げ、ご挨拶と致します。



卒業生の皆様！ お元気ですか？ 看護に向かって 頑張っていますか？

落合 富美江 教授



私が四日市看護医療大学に赴任して4年目を迎えています。私の担当科目は母性看護学と助産学です。特に助産学生を育てること、それは私にとって、教育の中心になっています。私が赴任して3年にわたって、すでに26名の助産師が卒業していきました。開学から合わせると、本学の助産師の卒業生は53名になります。現在、県外に就職し県外の病院で助産師として活躍していらっしゃる卒業生や、県内の病院で助産師として活躍していらっしゃる方がおられます。卒業後の学校訪問が行われ、就職した病院での状況を報告に来てくださっています。いきいきと助産師としてのケアについて話してくれたり、自分の今後の課題について何うと本当に嬉しく思います。卒業後も日々研鑽し成長している姿がとても頼もしく今後の活躍に期待しています。

県内に就職した卒業生は現在の助産実習の実習先にも就職しておられ、助産師としての実績を積まれておられます。実習先では、実習中の後輩の臨床指導を陰になり日向になり行ってくくださっています。卒業生の活躍は在校生の目標ともなり大きく本学の学生の教育に貢献して下さっています。本当に教員として頼もしく嬉しく思っています。

そして本学を卒業した学生は開学以来762名になります。看護師として、保健師として、地域の病院、保健センターそれぞれの医療現場でご活躍のことと思います。看護の現場は日々発展する看護の実践のため、大学の学びだけでは対応できない、さらなる資格をとりたい等々、卒業後看護に関する問題や課題を抱えておられる卒業生もおられることと思います。ぜひ本学の大学院への進学等生涯学習と考え看護を深めていってほしいと期待します。

本学の建学の精神である『人間たれ』を大切に人を愛し、人に寄り添うケアを看護実践につなげていっていただきたいと思います。いのちの現場こそこの精神が求められていると思います。皆さんの今後のご活躍を期待しています。

学び舎と学友は いつまでも大切に

伊藤 薫 准教授



看護専門職の道を歩き始めたみなさんは、どのような思いで毎日、仕事に、家庭に向かい合っていますか？ 大学時代は、社会人になったら、「思い切り自由な時間は満喫したい」「時間を忘れて遊んでみたい」と思われていたのではないのでしょうか。しかし、実際に働き始めると学生時代以上に学ぶ時間の確保が必要になってきているのではないのでしょうか。また、学ぶことの重要性や大切さをより感じていませんか。熟達者は経験と学びの連続で成長し、多くの熟達者は「仕事が遊び、遊びが仕事」と評するくらい、仕事により人生を充実させています。20代から30代にかけては、女性としても大切な時期ですが、自分のペースに合わせて、学び続けて行ってください。その際には、学び舎であった大学を活用してください。また、同時に4年間ともに、学んだ友達との交流は続いていますか。仕事や家庭など、多忙な毎日では連絡を取り合う時間も少なくなってくるでしょう。もちろん、そうなるのも然りですが、それでもほんの少しでもともに学んだ友達は、看護専門職として人生を歩み始めたみなさんに年々磨かれる大切な宝となります。就職先は違っても、同じ看護専門職として、少しでも交流することにより、共通の悩みにより共感できたり、違った経験を積むことにより、未知なる知恵を与えられたりします。学友とのつながりを大切にすることは、自分自身に年々変化する財産を与えられると同じです。私も大学を卒業し早30年となり、今でも、学び舎と学友には感謝しています。そして、現在の一番の宝物は、卒業生のみなさんひとりです。ぜひ、大学に来られた際には、顔を見せてくださいね。

なりたい自分 に なれましたか？

中神 克之 講師



卒業生のみなさん、お久しぶりです。お元気でしょうか。四日市看護医療大学は、早いもので開学して10年が経ちました。私も入職して8年半です。いろいろなことが思い出されますが、みなさんとともに学びあった時間はあっという間だったなと振り返っています。

卒業して長い方で6年半、短い方で半年ですね。充実した日々を送っている方、まだそうでない方、新しい道を歩んでいる方、今後の進路に悩む方、いろいろでしょうか。市立四日市病院へ実習指導で何うと、そこで働く卒業生のみなさんの活躍や仕事ぶりをお見かけしたり、お聞きすると大変嬉しく感じます。一緒に実習をした方々なら、なおさら嬉しく誇らしく思います。他の病院・施設などで活躍されている卒業生のみなさんも、同様に活躍であろうと想像すると、さらに嬉しい気持ちになります。

さて、みなさんが学生の頃に、こんな大人・看護師・社会人になりたいとイメージをもっていたと思います。そのイメージしたような、なりたい自分になれましたか？

なりたい自分になれた人は、次の目標・夢に向かってどんどんがんばってください。

まだなりたい自分になれていない人は、焦らずじっくりがんばってください。

今がんばりたくない人は、しばらく休んでいずれがんばってください。

ゆっくりと、でもしっかりと、地に足をつけて、なりたい自分・目標・夢に向かって歩いていけたらいいですね。みなさん個人が、何かに地道に取り組んでくださることが、将来的に大学の社会的価値・評価を高めることになります。

四日市看護医療大学は、卒業してもなりたい自分・目標・夢に向かうみなさんをサポートできる大学です。気軽に、足を運んでください。そして、本学の教育へのご意見を忌憚なくお寄せください。お待ちしております。

大学の現況

就職率で選ぶ「本当に強い大学」ランキング全国第5位となりました！

学科長 豊島 泰子

卒業生の皆さんお元気ですか？四日市看護医療大学は、2011～2017年の卒業生のうち、現在275名が公務員として活躍しています。保健師の国家試験受験資格は、547名が取得し、現在23名が保健師として活躍し、助産師国家試験受験資格は、53名が取得し、全員が助産師として活躍しています。皆さんのおかげで本学は、2016/8/5東洋経済オンライン上就職率で選ぶ「本当に強い大学」ランキングで全国第5位となりました。また、リクルート・カレッジマネジメント掲載の2017年「進学ブランド力調査」では、東海地区「志願度」は理系女子で第19位、「社会で役立つ力が身につく」は第9位にランクされました。

四日市看護医療大学は開学11年目を迎え、このような結果が得られることは、ひとえに卒業生1人ひとりがそれぞれの現場で活躍されているからです。現在、医療の現場は高度化し、複雑化しますます専門知識・技術が求められ、看護職が期待されているため苦労も多いかと思います。何か困ったことがあればいつでも相談に来てくださいね。今後とも皆様の活躍の様子を見守っています。

卒業生の皆様、大学院進学にチャレンジしてみませんか！

研究科長 福原 隆子

高齢化社会の進展、医療の高度化、人々の健康意識の高まりの中で、社会の看護に対する期待は増々大きなものになってきています。本学大学院修士課程では、「修士論文コース」と「専門看護師（CNS）コース」を設け、高度な専門知識・技術を身につけ、人々の複雑な健康問題の解決に積極的に取り組み、社会の要請に応えることができる人間力豊かな人材の育成に取り組んでいます。本学大学院では、仕事を継続しながら学べるように、土曜日や夜間開講のほか、2年間で修了が困難な院生さんに対しては3年間の長期履修制度を設け、仕事や家事育児などとの両立に配慮した学修環境を整備しております。更に本学卒業生の場合は、入学・授業料の半額減免制度が利用できます。これまでの自分のキャリアを活かしつつ看護の専門性をより高めたい、新たに力を発揮するために必要なスキルを身につけたい、研究力をアップしたい、など、看護学の探索・探究に意欲を抱かれている卒業生の方々、それぞれの夢の実現、レベルアップに向けて本学大学院に進んでみませんか。教職員一同、心よりお待ちしております。

新任教員

【平成29年4月】

水野正延副学長、落合富美江教授（母性）再雇用、
久米龍子特任教授 再雇用、細川さやか准教授（母性）、
近藤三由希助教（基礎）、小林左耶花助手、寺尾亮平助手

【平成29年9月】

柿原加代子教授（基礎）

退任教員

【平成29年3月】

落合富美江教授（母性）、久米龍子教授（基礎）、
栗原喜代子講師（地域）

訂正

平成28年10月発行同窓会報（Vol. 4）新任教員紹介にて、石村由利子教授の領域が間違っていました。正しくは四日市看護医療大学大学院母子支援看護学（母性看護学）です。お詫びいたします。

第10回

よんよん祭

テーマ：「彩-いろどり-」

10月28日(土)・29日(日)

今年度で11回目となる本学大学祭、四日市大学と合同で行う「第9回よんよん祭」を10月28日(土)・29日(日)に開催いたします。

大学祭イベントとして、お笑いライブ、〇×クイズ、マジックショー、模擬店のほか、さらに今年は、昨年までの看護学部企画「ナースボランティア」を拡充し、新たに『プチっとナース体験』と名称を変更、看護棟1階から5階を使用し、たくさんのイベントや体験を企画しております。大学祭実行委員はじめ学生スタッフ一同、卒業生皆様のご来場を心からお待ちしております。

▽△▽プチっとナース体験（看護棟）イベント内容△▽△

エイズ予防啓発DVD／老人体験・いきいき体操／妊婦体験・赤ちゃん抱っこ
血圧ってなに・バイ菌から身を守ろう／くれよんサークル・災害支援サークル・救命部
四日市市健康づくり課による食育アドバイス・看護学生による食育ブース
イベントへ参加するごとにスタンプをゲット、その数に応じてくじ引きチケットと交換！
ハズレくじはありません！



同窓生メッセージ

鈴木哲也（平成23年度卒業）

同窓会誌への寄稿にあたり、消化器外科看護師になってからの5年間を振り返ってみました。1年目の時は仕事も職場も嫌いでした。人間関係の形成も不得意で仕事も要領が悪く、自分の居場所が作れず毎日がうんざりしていました。それでも、今まで辞めずに働いてこられたのは上司や厳しい同僚と優しい後輩に出会えたことです。職場では怒られ、いじられる事も多かったですが、プライベートでは飲み会やゴルフ、ボーリング大会、旅行などのイベントで交流できたことで少しずつ自分の居場所ができてきた気がします。そして現在は中堅という立場になり、医療安全委員や新人指導を担当しています。最初は嫌だなと思っていた委員会や教育も、様々な問題を繰り返し乗り越えていくことで仕事も少しずつ楽しくなってきました。辞めずに続けることで仕事もできるようになるし、人は育つのだと思いました。

山本淑恵（平成23年度卒業）

私は、広島市役所で嘱託保健師として働いています。主な担当は母子保健と難病です。私は大学を卒業してすぐに整形外科の病棟看護師として3年間働きました。看護師としての技術を学び、術後管理や退院支援を行ってきました。そこで退院後の支援のみならず予防も含めた支援をしていきたいと思い至り、新たに保健師として働くことを決めました。行政保健師は、事務的な作業が増加する一方、より専門的な役割が求められきているのが現状です。しかし、妊娠から出産、就学までの子育て支援を通じて、子どもと保護者に長期間関わっていただけることで得られる経験は、行政ならではの特権ではないかなと思います。子どもに対して育てにくさを抱えている母親や家族の不安に寄り添い、少しでも安心して育児が行えるよう、どのように支援していくか日々勉強の毎日ですが、長期的な関わりの中で少しずつ信頼関係を築いていけるこの仕事に魅力を感じています。

鈴木翔太（平成23年度卒業）

現在、私は静岡県立総合病院のICU・CCUの6年目として働いております。心臓血管外科・脳神経外科の予定患者だけでなく、緊急入院患者など多くの患者さんの看護を行っています。入職した当初は右も左もわからず困ることが多々ありましたが、現在は少しずつ役割も与えられ、問題意識を持って働くことができるようになりました。また、心に余裕ができたせいか色々なことを振り返られるようになりました。三重県外の病院に就職したので、なかなか大学の友達に会えませんが元気に頑張っています。今後は学会発表を行ったり、補助人工心臓チームの一員として少しずつ患者さん、社会に貢献できるよう努力していきたいと思います。静岡はとても暖かく過ごしやすいで皆さん機会があれば是非遊びに立ち寄ってみてください。

佐野愛実（平成24年度卒業）

私は、市立四日市病院の腎臓内科、皮膚科、内分泌内科、泌尿器科の混合病棟で働いています。4年目になってプリセプターとして新人さんを指導する立場になり、指導する責任や難しさを感じると共に、新人さんの考えが自分自身を振り返り、知識や技術を見直す機会となり、たくさんのかたちを一緒に学んでいます。任されることや頼られることも増え、毎日忙しく、大変な仕事ですが4年目になって看護師として働き、患者さんや家族と関わることの楽しさや、やりがいを感じています。これからも患者さんや家族に寄り添った看護ができるようにこれからも頑張っていきたいと思っています。

決算報告書

（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

	費 目	金 額	備 考
収入の部	前年度繰越金	15,902,518	
	会 費 収 入	3,420,000	同窓会費114名分
	雑 収 入	212	利息
	合 計	19,322,730	

	費 目	金 額	備 考
支出の部	会 費	57,324	暁学園同窓会費
	同窓会会報費	171,784	印刷、郵送代等
	卒業記念品費	148,716	携帯マグ、花
	通信運搬費	4,644	弔電
	雑 費	45,000	連合同窓会参加費、退学者返金
	小 計	427,468	
	次年度繰越金	18,895,262	
	合 計	19,322,730	

同窓会役員

会 長 近藤あおい（平成22年度卒業）
副会長 葛谷 直樹（平成23年度卒業）
会 計 小嶋 まり（平成22年度卒業）
書 記 北森 史佳（平成24年度卒業）
監 査 中村明日香（平成23年度卒業）
寺尾 亮平（平成23年度卒業）
新田 悠介（平成25年度卒業）

安達 菜月（平成25年度卒業）
加藤 愛美（平成25年度卒業）
中村 愛佳（平成25年度卒業）
達 晴香（平成26年度卒業）
田路 康恵（平成26年度卒業）
利見樹良莉（平成27年度卒業）
山門 美結（平成28年度卒業）